

# 牛久：学校周辺に見る自然

第34号 牛久自然観察の森

2019年3月7日発行

## ＜ 牛久自然観察の森で、生き物たちの冬ごしのくふうを観察しました ＞

皆さん、こんにちは。6年生は、まもなく卒業式ですね。あと何日と数えては、また寂しくなるなど、ちょっと悲しい気持ちにもなりますが、どうかみんな明るい中学校生活を迎えてほしいと思います。ひたち野うしく小学校では、セレクト給食に招いていただき、ありがとうございました。「生きもの観察が大好き」と言ってくれた子もいて、嬉しくなりましたよ。

さて、そろそろ春の兆しが見えてきて、私の花粉症も勢いを増してきましたが、春の報告の前に冬の記事をあと一つ。1月10日に歩いた、牛久自然観察の森で見られた生きものたちを、牛久二小とひたち野うしく小の観察では見つからなかったものに限り紹介します。



一年中、緑の葉を着けている  
樹木を常緑樹といいますが、  
写真のヒサカキのような  
常緑樹の葉の裏で、じっとし  
て冬を越すチョウ、ウラギン  
シジミがいました。どこにい  
るか、わかりますか？2頭、並  
んでいます。みずべ公園でも毎  
年見つけられますが、今年はダメ  
でしたね。

ヒサカキの葉裏で、じっとして冬を  
越すウラギンシジミ(成虫越冬)。



えだ てんてき  
枝そっくりで天敵に見つかりにくい、ホソミオツネ  
トンボの成虫越冬。  
せいちゆうえつとう

トンボのなかまで成虫越冬するものはほとん

どいませんが、このホソミオツネトンボは  
せいちゆう こ えだ  
成虫で冬を越します。姿もとまり方も枝そっく  
りで、その気になって探さないと見つかりませ  
ん。きっと、てんてき  
天敵にも見つかりにくいでしょう  
ね。春になると、色が変わりますよ。ぜひ、見  
つけてみて下さい。



らん  
コカマキリの卵のう(左)と、巣網(すあみ)にぶら下がったまま死んでいたジョロウグモ(右)。

牛久二小では古いのしか見つかりませんでしたが、ここでは新しいコカマキリのらん  
のうを見つけま  
した。秋にここで見かけたのがさんらん  
産卵したのでしょう。ジョロウグモはみずべ公園では卵塊をいくつかに  
見つけましたが、ここではさんらん す  
産卵を済ませて巣網(すあみ)にぶら下がったまま死んでいためす  
雌を見つけました。ジョロ  
ウグモは、せいちゆう  
成虫では冬を越せませんが、たくさんのたまご  
卵を産んで、次のせだい  
世代を残して死んでゆくのです。



最後に、鳥です。かさこそ音がするので、何かいるなとじっとしてカメラを構えていたら、通路の前方をコジュケイの親子が横切りました。「チョットコイ、チョットコイ」と大きな声で鳴き、今ではそこらじゅうに当たり前のようになっていますが、中国から持ちこまれ、大正時代に放されたのが最初だそうです。

通路を横切るコジュケイの親子。中国原産だが、今では九州から南東北まで広がっている。



続いて、ルリビタキ。ときどき紹介しているジョウビタキに近いなかまですが、青がきれいですね。これは雄で、雌も尾は青くなりますが体は茶色っぽいです。例外もあります。鳥のなかまは雄が大きくカラフルなのが多いようです。木の実を食べているのをよく見かけますが、昆虫も食べるそうです。

青が美しい、ルリビタキのおす。繁殖期(はんしよくき)には、なわばりをもつ。



落ち葉のつもった中に、鳥の羽が重なっていました。どうやら、キジのようです。何に、襲われたのでしょうか？本体は、近くには見つかりませんでした。エサの少ない冬。生きものたちは皆、春に向かって必死に生きています。

【理科支援員：宮内】

つもった落ち葉に重なる、キジの羽毛。